



ステージ発表団体

- ふれ愛エアロ
- マカナ・アロハ
- キッズコーラスあぐどまめ
- フラサークル ミノアカ
- フォークダンス同好会
- PO'E HULA KANOA
- 嵯峨流 藤舞会
- 童謡おおつち
- Malie Lanikai
- コーラス大槌
- 槌音弦楽アンサンブル
- 大槌子どもオーケストラ



第16回
『文化』の祭典
50周年を彩る

進行でトークショーが行われました。テーマは「芸術文化を生かしたまちづくりについて」。登壇した皆さんからは「子ども世代を巻き込んだ文化の発信が必要」などの意見が挙げられ、この町をもっと多くの人に知ってほしいという強い思いがにじみ出るトークショーでした。

舞台に咲く『文化』の花

11月5日（日）、大槌町民文化祭のフィナーレを飾るステージ発表が、城山公園体育館で行われました。出演団体は12団体。フラダンスなどの演舞、演奏や合唱など、それぞれの団体の個性が光る出し物が披露され、会場からは大きな声援や歓声が鳴り止みませんでした。舞台上に登壇した人たちは自信に満ちた表情と、満足そうな笑みを浮かべていました。皆さんも年齢や性別にとらわれないことなく、自分の好きなことを仲間と一緒に楽しんで、大槌町に『文化』の花を咲かせましょう。

今回は、11月3日（金・祝）から11月5日（日）までの3日間で行われた、第50回大槌町民文化祭の様子をお届けします。

町民文化祭50周年記念

昭和46年（1971年）から始まった「大槌町民文化祭」は今回で50回目。11月3日（金・祝）、城山公園体育館では、この節目を記念する行事として三陸♥おおつちPR大使によるミニコンサートおよびトークショーが行われました。

ミニコンサートを盛り上げたPR大使は、underpathi（アンダーパス）MIKAさんとみち乃く兄弟の二人、はなわさんです。MIKAさんは、相方のMASAHIROさんと一緒にステージに立ち、いわてみんなのうたでお馴染みの「たたりら」などを披露しました。MIKAさんは地元の大町地区出身で、この日は母親も会場に訪れており、当時の昔話などで舞台に花を添えました。

続けてステージに上がったのは、吉里吉里地区出身のみち乃く兄弟の二人です。ふるさと大槌を思い作詞作曲した「ふるさとの歌」や、新沼謙治さんが作詞作曲した「帰郷」などを歌いました。実兄弟ならではの息の合ったトークで、会場の温度が一気に上がりました。

最後を飾ったのは、はなわさんです。代表曲の「佐賀県」をはじめ、自身の妻や義父を思い作った曲「ママには内緒」「お義父さん」などを歌い演奏しました。また、当日披露した「同じ時代に生まれた若者たち」は、はなわさんが作詞作曲した曲で、大槌の復興を応援する曲として位置づけられています。この曲が縁となつて、はなわさんには、大槌町のPR大使を務めていただいています。

コンサート後は、出演したPR大使の4人と、大槌町芸術文化協会長の越田征男さん、町長と教育長が登壇し、PR大使の佐藤ひろ美さんの



おしゃつちに
展示された
作品をご紹介します！